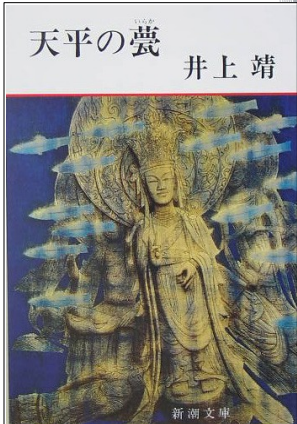


～自分が変わる 世界が変わる 本との出会い～



金澤 正和
『天平の薨』 井上 靖著 新潮社

平城京遷都後千三百年の今年お薦めの一冊。聖武天皇の天平年間、日本の仏教界のために中国から伝戒の師を招く任務を受けた若き2人の学僧、普照と栄叡の物語です。在唐20年の苦難の末、普照はついに高層鑑真を伴い帰国します。栄叡は病に斃れ、鑑真は失明していました。日中両僧の一途な求道精神と真摯な姿に感動します。



寺本 考寛
『増補版 時刻表昭和史』 宮脇 俊三著 角川書店

反戦代議士を父に持った、時刻表に関しては早熟な主人公から見た自己形成小説。書かずにはいらなかった戦時中の青春、当時の世相、日常、政治、そして軍国主義国日本の敗戦。それでも汽車は定刻に走っていた。時刻表を通して語られる、平和、未来へのメッセージ。



西山 光江
『自閉っ子、
こういう風にできてます!』
ニキ リンコ著 花風社

自閉症児・者の余暇活動音楽サークル、就労支援といった発達障がい者の支援に関わっている友人の言葉を理解したくて読んだ本です。自閉



症は心の病気ではなく脳の病気です、不思議な行動には理由がある、感覚が健常者とは異なること等々、友人の言葉がずっと理解できた、と思えたのです。



北見 敬子
『乙女の教室』 美輪 明宏著 集英社

女の子たちにお薦めしたい本です。せっかく女の子に生まれてきたんだから、美しく生きなくっちゃ.....損々。この本にはエレガントで素敵な女性になるための秘訣が満載です。乙女の課題がたくさん書かれています、自分で出来そうなものから取り組んでいきましょう。きっと素敵な美しい女性になれるはず.....です。

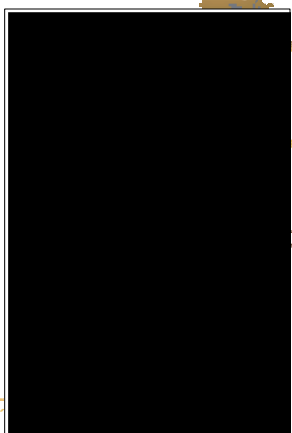
武井 克朗
『鼻行類』
ハラルト・シュテンブケ著 平凡社

第二次世界大戦中、日本軍捕虜収容所から逃げ出した男が漂着した島。そこに住む生物は、鼻を独自に進化させ、生活していました。この本は、その奇妙な生物を紹介しています。もちろん、このような生物は実際にはいませんが、まるで本当にいるかのように思えてくる本です。まじめな冗談が好きの人、ぜひ読んでみて下さい。



池田 由里子
『ピアニストになると思わなかった。』
天平著 ポプラ社

とても情熱的、どことなく武骨、でも繊細さと優しさを秘める彼の創る“音楽”。幼い時からやんちゃで問題児。喧嘩と肉体労働の日々を過ごす彼は「この生活を変えなかつたら一生このままや」と一念発起して大阪芸大に入り首席で卒業。将来は格闘家かピアニストか迷ったという異色の経歴を持つピアニスト天平の半自叙伝。「夢を持っていたら道は開ける」という言葉を現実にした彼の、何とも人間味あふれる一冊です。



伊計 昌代
『ぼくがおおきくなったら』
いもと ようこ著 佼成出版社

5分で読める、感動作です。読後にはそっと優しく抱きしめられた感覚になります。

この本で、子ぎつねは、自分には自慢できる事が何もない事に気がつき、将来の夢を語る事ができません。でも、子ぎつねは見つけました。生きる希望も、将来の夢も。あなたもそう思えますように。あなたは大きくなったら何になりたいですか？



ご案内

図書委員からのお薦めは第一職員室前と図書室前に掲示予定です